

2015年9月4日(金)

# みらいへの扉



高等特別支援学校 支援部 第73号

誰でも得意不得意があります。

本校の生徒達を見ても、得意なことはいっぱいあるのに、話すことだけ苦手、作業の力加減の調節だけ苦手など発達にアンバランスさを感じる生徒がとて多いのです。何が得意で、何が不得意かという事ははっきりさせておくことは、本人が“自分を知る”という意味でとても大切です。

ただアンバランスではあるけれども、手持ちの力は多いのが本校生の強みです。例を見ながら、今回は軽度知的障害である本校生の支援と発達について考えてみたいと思います。



## 気温が分かりにくいA君の例

衣替えの時期。

寒いのに、1人だけ半袖を着ている生徒。

暑くなったのに、汗をかきながら冬服のブレザーの生徒。

気温が分かりにくいのか、障害特性として適した服装ができない生徒がいます。

働く時、上司に「半袖か長袖か何枚着るのか指示して下さい。」と言うしかないのでしょうか？(受け身の支援)

じゃあ、社長さん  
お願いします



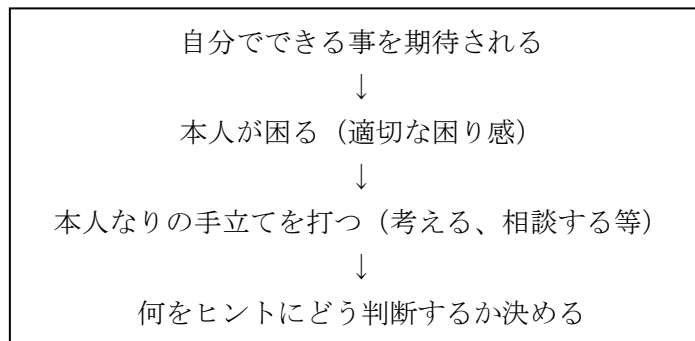
“気温が分かりにくい”という障害特性自体は根本的には変わりません。では、どのような方法で問題解決していったらよいのでしょうか？

まず……………自分で半袖か、長袖か、何枚着るかを判断して服装を整える事は仕事のひとつ

として大切な判断であるとA君に意識付けます。

「どうしよう、苦手だな。」と思いながらも、新たな目標のひとつとして何とかできるようになりたいと思うものです。

周囲の大人は困っている姿を見ると先回りして助けてあげたい心情になりますが、ここでは我慢です。



このようなサイクルで、大人が知らぬ間にできることが増えていきます。その後、「最近、服装の調節を気にしてよくやっているね。」と本人に言ってあげる事もとても大切な支援になります。

なんとなくできるようになっているな。ということは分かって、その子の判断の道筋は我々には分かりません。

気温で決める、26℃以上は半袖、とか。

先生と同じような服装をする、とか。

自分に合った答えを考えることが大切です。既製品の受け身の支援より、自分で作り上げた自己支援の方が自分に合うものです。Do It Yourself!!(DIYですね!) 試行錯誤を繰り返しながらより改善していくこともできます。

……………それでも自信のない子もいます。

「周りにはどんな服装が多い?半袖?長袖?」

「じゃあ、今はどんな服装がいいと思う?」

この判断が正しくできるのが、軽度の本校生の強みです。

「あなたは正しい判断ができますね。安心しました。これからは服装を自分で決められますね。」

考え方の道筋が分かれば、(周囲の服装を参考にする)という自己支援ができます。

発達心理学者の浜田寿美男氏は、**手持ちの力を使い、今のできなさを引き受けて、なんとかやりくりしながら、自分の最大限をその都度生きていく中で、次の力が伸びることを発達**としています。

自分は……………が苦手なので……………をヒントにして考え、自己支援をしていく  
在校中にいっぱい集めたいですね。



ひとつだけでなく、苦手なことが複数ある生徒が多いのが現実です。A君のように問題解決できる事もあれば、解決の糸口を探している段階の問題もあるでしょう。

在学中は、これを整理するチャンスです。

受け身の支援をできるだけ少なくし、手持ちの力を使った自己支援を増やしていく。それでも苦手として残った受け身の支援が、自力でできない本当に必要な支援となります。余分なものを全てそぎ落としたミニマムエッセンスの支援を見極めていきましょう。

